

令和7年度日南町立認定こども園にちなん十色 園評価結果

1 園教育目標

教育目標「ふるさとに学び、夢に向かい、生き生きと輝く子どもの育成」
 ＊学び続ける力…自分の考えを持ち、遊びきる子ども
 ＊かかわりあう力…自分を好きになり、友達(人)も大切にできる子ども
 ＊ふるさとを愛する心…地域に触れ、地域に親しみ自分を表現する子ども

2 本年度の重点目標と手立て

○学び続ける力…まずはなんでもやってみようとして自己決定する子の育成(自己決定)
 ・子ども主体、見守る保育の意義を熟議し、理解を深めながら関わっていく。
 ・ねらいに応じた選択制の保育、興味、関心のある環境設定。
 ・STEAMS 教育の中で「やってみよう」を育む。
 ○かかわりあう力…やってみて楽しかった事、発見を自分の言葉で伝える子の育成(異年齢遊び)
 ・異年齢児保育の中で、言葉でのやり取りすることで修得する力をつけていく。
 ・かかわりを大切に保育、人権保育への取り組み。
 ・大人のチーム保育をより一層充実させ、子どものかかわりを支援できる力につなげる。
 ○ふるさとを愛する心…多様な人、物との出会いから自尊感情を育む(地域に親しむ)
 ・農業体験・CS 活動でできるだけ多く地域の方と交流し、日南町を知る。
 ・絵本の読み聞かせ・素話の効果を理解し取り組む。
 ・異文化に触れる活動(英語教育)から言葉、文化に興味を持つ。

3 今年度の振り返り

評価項目	理由
学び続ける力	<ul style="list-style-type: none"> 給食の食べきれる量の調節が上達するなど、自分で考えて決める成果が見られる。 講師派遣研修(せいが子ども園)において、見守る意義(失敗から立ち直る力、自分で解決する力)や大人が正しく導く重要性等「見守る保育」のあり方を再認識する。 親子絵本貸出(がんばるウィーク)は、保護者からも好評であり、読み聞かせの重要性や定着に向け、引き続き取り組んでいきたい。
かかわりあう力	<ul style="list-style-type: none"> 友達の存在が身近になり、遊び、着脱など友達から刺激を受け、自らやってみようとする姿につながってきている。 大人を介さず子ども同士のコミュニティが、未満児(0歳児)から形成されている。 年下児とのかかわりで見本となるよう励む姿が自信につながっていると、保護者からも異年齢保育への良い評価を得ている。
ふるさとを愛する心	<ul style="list-style-type: none"> CS 活動が、子ども達の新たな姿の発見につながる意味のある時間になり、職員も知識を得たり、言動に触れたりすることで、大きな刺激や学びの機会となった。 英語活動は年間計画や月の目標を立て、アルファベット、数、色など全年齢で取り組むことができ、年長児では18人中17人が楽しいと回答するなど英語に親しめている。 今年度「イメージカ」への取り組みで、全園年長児が年間を通して素話体験をした。

4 来年度に向けての改善策

【非認知能力の育成】
○学び続ける力…初めての事に挑戦し、失敗しても再度挑戦することで「やればできる」と思える(自分を信じる力)
 ・講師派遣研修(せいが子ども園)の学びを実践の場で振り返り、日南町の見守る保育を確立していく。
 ・STEAMS 教育を通じ、子どもたちが自ら考えて答えや遊びを創り出し、試行錯誤を繰り返しながら挑戦し続ける力を育む。
 ・絵本の読み聞かせやメディア利用、社会性の発達を柱とし、保護者とともに家庭教育の重点を見出し、支えていく。
○かかわりあう力…自分の気づいた事や気持ちを言葉で伝えることができる(自分の思いや考えを発信する力)
 ・選択制、習熟度別、順序性、年齢別など、活動のねらいに合わせた集団を形成し、かかわりあう力を育む。
 ・「共存共栄」の理念に基づき、友達への配慮を持ったかかわり方について、大人も子どもも意識してかかわる。
 ・大人が問題を解決せず、子ども同士で助け合ったり、失敗から立ち直ったりするのを待つ姿勢を共通理解する。
○ふるさとを愛する心…地域の人とのかかわりの中で新たな自分や自分の良さに気づく(地域を知り自分を知る)
 ・SC 交流(スポーツクラブ)では年間を通して身体作りに取り組み、その成果を運動会で表現していく。
 ・CS 交流を充実させるとともに、生活場面でも地域の人と交流し認められることで、自己肯定感を高める。
 ・0歳児から年間計画に沿って定期的に英語に触れ、多様な音や表現に親しむ中で、言葉の壁を感じることなく意思疎通を図る体験を積み重ね、豊かなコミュニケーション能力の基礎を育みます。